

# 令和という時代の幕開けに、ことばの海の新しい羅針盤として『大辞林 第四版』を9月5日に発売

～日本語の伝統と最新の姿を映す 25万 1,000 項目、書籍購入者にはスマホアプリ利用の特典付き～

株式会社 三省堂(本社:東京都千代田区、代表取締役:北口克彦)は、一冊ものの大型国語辞典の令和初の最新改訂版となる『大辞林 第四版』を2019年9月5日(木)に発売いたします(一部地域を除きます)。新しい時代を「確かなことば」で切り開くための基本辞典となることを目指し、一冊ものの大型国語辞典に求められる役割を追求。定評をいただいた第三版の特長をさらに進化させました。また、書籍購入者には、特典としてスマホで使えるアプリを無料で提供。紙とデジタルの双方で、いつでもどこでも『大辞林』を使うことを可能にします。【URL】 <https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/topic/djr4/>



新しい時代に、新しい大辞林。 **9/5 発売**

令和の辞書  
**大辞林 第四版**  
本体9,000円+税

## 『大辞林 第四版』の基本コンセプト

『大辞林 第四版』は、令和という新しい時代を「確かなことば」で切り開くための基本辞典となることを目指して編まれました。現在の日本語の姿を映し出しつつ、万葉の古代から令和の現代に至るまでの日本語の総体を一冊に収めました。語義解説にあたっては、現代の意味・用法から配列する「現代語義優先方式」を採用。時代によって語義が異なる言葉は、まず現代の語義から解説し、次に語の全体像を見渡す構成になっています(類書は歴史的に古い語義から記述)。



【出典】  
万一萬葉集(奈良時代)、源一源氏物語(平安時代)、枕一枕草子(平安時代)  
平家一平家物語(鎌倉時代)、去来抄(江戸時代)

**現代語義から解説**

時代によって語義の異なる語は、現代の意味から解説(類書は歴史的に古いものから解説。まず現代の語義から次に語の全体像を見渡す分りやすい構成)。

**かなしい** ①(悲しい・哀しい・愛しい)形 凶シク  
気持だつらく切ない。②(悲・憂)母に死なれてい  
「誠意が通じなくてい」「古くは「愛し」書かれた  
①身にしみていよいよ切ないほどにわい(愛)何  
その見ここのこだし(万三三三)②心にしるよ  
うな趣だ、深い感興を感じる。みちのくはいづくはあれ  
ど塩釜の浦へ舟の綱手・しも 古今東歌 ③現事だ。感  
心するほど並派だ。「し」せられたりと、見あさみけ  
るとなん(著聞七)④契念だくやしい。物もおおえぬ  
くさり女に「しう言はれたる。宇治拾遺七」⑤貧苦がつ  
らい。「ひとりあるせがれを行く末の楽しみに、しとき年  
をふりにし。浮永代蔵」切なさにつけ愛いし。しとき  
感情が痛切に迫って心が強く打たれるさまを表す意が原  
義(源生一(形動)一(名)一(名)一(名))

おどろく③(驚く・愕く・駭く)動カ五(四) ①思いがけ  
ないことにあつて、落ち着きを失う。びびくりする。「事の  
意外さに「く」②思い知らされて、感心したりあきれた  
りする。「連者な日本語に「く」君の世間知らずには!  
いた」③はつと気づく。「秋きぬと目にはよやかに見えね  
ども風の音にぞ「か」かぬる。古今枕上」④目がさめる。  
「起し給へば、ふと「きぬ」源幸」(現代も四国地方な  
どで用いられる)

万葉集の古代語から現代語に至るまで  
各時代のことばと語義を収録

【動詞「句う」の連用形から】  
①物から発散されて鼻で感じる刺激(かおり)。  
くさみなど、臭気。「かおりが快い刺激についていうの  
に對し、「においは快・不快両方について、不快な場  
合の漢字表記は多くは「臭い」。「花の」をかく。「香水の  
「玉ねぎの腐った」。「変な」がする。「薬品の」を  
か」。②そのものもつ雰囲気やおもむき、それらしい感  
じ。「パリの」のする雑誌「生活の」の感られない女  
優「不正の」がする。「悪の」③日本刀の重要な見所の  
。地肌と刃部との境目によって勝つように白くはん  
のりと見える部分。「油」④色、特に赤い色の映えのあ  
る美しさ。色が美しく照り映えること。「紅に染めてし衣  
雨降りて「はすとも「万三三三」⑤つややかな美しさ。  
なやかな美しさ。「この(若)若御には並び給ふべくも  
あらざりければ 源隆盛」⑥感光。豪華。「官位」世の中  
の「も何ともおほえすなむ 源隆盛」⑦染め色。髪や織  
物の色目で、濃い色から次第に薄くなっているもの。「蘇  
枋」の下すだれ、「いと清らにて 枕上」⑧「句い」織  
の略。「明黄の」の織して「平家上」⑨「描き」眉の、薄くほ  
かしてある部分。⑩俳諧用語。発句または付句から感じ  
とられる情趣。「今はうつり・響き」位を以て付くを  
良しとす(去来抄) ↓句付け。

新しい時代の基本辞典 - 今現在の社会・文化を映す大型国語辞典

新時代に対応した項目や用例、若者言葉、新しい言い方、カタカナ・アルファベット表記語などを十分に収録しています。また、すでに掲載されていることばでも、時代とともに広がり、定着した新しい語義を追加しています。さらに、国際化・多文化共生社会に向けて、母語話者には自明でも説明の難しいことばについて、見出し語と記述を増補・充実させています。

**接続語** 文と文をつなぐことば。ニュアンスも含めて説明。

こうなることば(①)「断つ」(②)「接続」 前の事柄から順当に次の事柄が導き出されることを表す多く前件で好ましくない事態に至ったことを述べ、後件に否定的な内容の判断や推測を述べる。ミスが続く、チームワークが乱れる。「もう勝負どころではない」

これだから(③)「これだから」(接続) 前の事柄が原因・理由となり、当然の結果として次の事柄が導かれることを表す。「目が離せない」「帰ってくる」と泥だらけ。「男の子は困り者です」

それをもって(④)「連動」 ①それを手を使って、それを手段や素材として「バケツを手に持ち」水汲み出した。②その状態で、その時点で「チームワークは最悪」(試合中に臨んだ)から自覚する。「当然、た」(⑤)「接続」(話し言葉で用いる) ①前の事柄に次の事柄が付け加わることを表す。「雨が強くなった」

結果として(⑥)「前」前の事柄が原因となり、その結果として次の事柄が起ることを表す。「(⑦)「雇用契約が切れた」無職となった」

**国際化・多文化共生社会の日本語**

複合動詞やさまざまな接続語など、母語話者には自明でも説明の難しいことばをこれらに収録するのは、語数の多い今の時代の大型国語辞典の役割とも言えます。

**複合動詞** 単に二つの動詞の意味を組み合わせただけではない

うつこむ(①)「映り込む」「存り込む」(動マ五四) ①水面やガラスなどに物の影が映って、風景の一部になる。湖面に富士山が「うつこむ」姿に「んだ人影」(②)ある動物が画面の中に入ってしまった。「ニュースに野次馬が「うつこむ」」

えらびぬく(③)「選り抜く」(動カ五四) 考えに考えてもっともよいものを選び、食材を「えらびぬく」

さきさき(④)「咲き競う」(動ワ五四) たくさんの花が美しく咲き競うように「一斉に咲く」一面に「うとけだす」(⑤)「溶け出す」(動サ五四) 物質が溶けて他の液体に混ざる「うまがスープに「す」有る物質が川に「ける」

ほほえみ(⑥)「微笑み掛ける」(動カ下) (⑦)「笑かす」はほほえみ、相手に向かっはほほえむ「併役がカメラに「ける」

**日本語の現在** 新語・新語義、学術科学用語、片仮名・アルファベット表記語への対応

**新時代に対応した項目用例**

れい(令和) 年号(①)「平成の後、今上天皇の時代」

れいげつ(国会) ①何事をするのにもよい月、めでたい月。よい月「初春の」にして、気爽く風和まじ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は羅後半の香を薫す(万八、五右衛門) ②陰暦二月の異名。

**若者言葉**

インスタばえ(①)「映」(②)「映」(動カ共有SNS) サビのインスタグラムで注目を集める「こからいう」物事が多くの人々の興味関心を集めるほど見受けが良く魅力的な様子であること「インスタブレイク」

ワンチャン(③)「ワンチャンスの略」近年の若者言葉で「もししたら」ひよっとするとの意で副詞的に用いる語。「アイドルに会えるかも」

他に「エモい」「推し」「ざりげに」「それな」「進んで」「なげに」「テコな」「ぶちやけ」「スルー」「はんばい」「ハスな」など

**アルファベット表記語**

GDPR (General Data Protection Regulation) 一般データ保護規則。ヨーロッパ連合(EU)の個人情報保護を目的としたルール。2016年発効。18年適用。企業などによる個人情報の取り扱いについて法的要件を定めたもの。(以前の保護規則と異なり、ヨーロッパ連合加盟国共通の規則であるため、各国で改めて法規定する必要がない。また、情報化の進展に伴い、厳格な規則となった)

BMI (body mass index) ボディマスインデックス。体重(kg)を身長(m)の2乗で割った数。肥満度指数。

5G (5th generation) 第5世代移動体通信の総称。2020年(令和2)頃の商用化に向けて開発が進められている。超高速、大容量、低遅延、多数接続(IoT)、遠隔地操作を可能にする超低遅延の実現をほかる。

他に、AYA世代 / COP21 / EPA / GAFA / IoT / iPS細胞 / RCEP / TPP11 / 3Dプリンター / など

**新しい言い方・語義**

つかいたおす(①)「使いつぶす」(動カ五四) 徹底的に使う「使いつぶす」掃除機が壊れるまで、「使いつぶす」いろいろな用途に「す」

他に「決りあす」「持てる」「神がかる」「深掘り」「前のめり」「刺さる」など

一冊ものの大型国語辞典の最高峰をめざして

一冊ものの大型国語辞典に求められる役割を追求し、現代語を中心に、古語・固有名詞・専門語まで、現代に求められる幅広い分野の項目を収録しました。第三版から1万3,000項目増で、総収録項目数は25万1,000となり、類書中最大級の収録数です。

第四版の新規項目

最新の社会・経済・ビジネス

- アリーダブター / アリーダブター / アリーダブター / 暗号資産 / 暗号通貨 / 仮想通貨 / アンダーコントロール / 一帯一路 / 一般データ保護規則 / インベーター理論 / インフルエンサー / ウェイクアップ / ウィキペディア / ウェアラブル端末 / ウェアラブルコンピュータ / ウェアラブルデバイス / ウェアラブルデバイス / 拡張現実 / 活動量計 / 技能実習生 / 三方よし / シェアリングエコノミー / 出入国在留管理庁 / スマートスピーカー / ダイバースメント / テレワーク / 特定技能 / パーセルスリー / ビットコイン / フィンテック / フェイクニュース / フラットフォワード / フリーアドレス / フレグジット / フルオキシアン / フロムグッチ / ラストベルト / レッドオーシャン / ワンオペ / BOP / ビジネス / EPA / GAFA / GSOMIA / IoT / モノのインターネット / IS / アスラム / HAD / TPP11 / SG

科学・学術

- 顔認識 / クリスパ / キヤスナイン / クロスアップリング / ゲノム編集 / ヨライダー / シンギュラリティ / スーパー台風 / ディープラーニング / テクノロジー / 光触媒 / ヒッグス粒子 / フォーレス / 原人 / 不気味の谷 / 分子モーター / ラミタス猿 / APG 体系

環境

- エシカル / カーボンフットプリント / 減容 / 香害 / サマルリサイクル / 持続可能な開発目標 / サステナビリティ / ネオ / テノノイド / バイオプラスチック / 光害 / マイクロプラスチック / マヤバツク / COP21 / EMS / SDGs / 3R

医学・医療

- エリメクチン / エビモン / オフジボ / オンコセル力症 / 禁煙外来 / サイレントキラー / ジストリア / 処方箋医薬品 / 免疫マーカー / ポイント / 薬機法 / BS14施設 / DMAT / DPAT / ICID

生活・食品・教育・文化

- アンダーパス / 育ボス / イノクルシブ教育 / 絵文字 (emoji) / 介護医療院 / 機能性表示食品 / キャップイヤー / キャリーオーバー / クラフトビール / 災害用伝言ダイヤル / シェルキュトリ / シニラ / サイス / 潜伏キリシタン / 管球 / 食レポ / スピードハンパ / 戦隊ヒーロー / ターレ / タブルケア / 調乳 / 特別警報 / 豊洲 / ネウボラ / パーチャルユーチューバー / 発報 / フードドライブ / マインドフルネス / ミニリスト / 無形文化遺産 / ラスポス / リカレント教育 / レジリエンス / ローリングスタック法 / ロック板 / AOC / AOP / NISA / STEM

慣用句

- 一翼を担う / 傷口に塩を塗る / キャラが立つ / 空気を読む / 下駄(げた)の雪 / スイッチが入る / 背中を押す / 背中を見て育つ / 引き出しが多い



## あくまで一冊にこだわった使いやすい造本

第三版より 224 ページ増加したにもかかわらず、用紙と製本を工夫することにより、冊子の厚さを削減。1冊にまとまった使い勝手の良さを実現しました。豪華な装幀は、杉浦康平・佐藤篤司の手になるものです。



## 『大辞林 第四版』がスマホでも使える

書籍を購入いただいた方への特典として、スマホ(iPhone・Android 対応)で利用できるアプリの『大辞林』を提供し、家では書籍を利用するが、外出先ではスマホで使いたいというニーズに応えます。また、アプリの『大辞林』は書籍未収録語の収載、およびアップデートあり。ことばの生成と変化を追い続け、ことばの「今」を映し出します。



## その他の特長

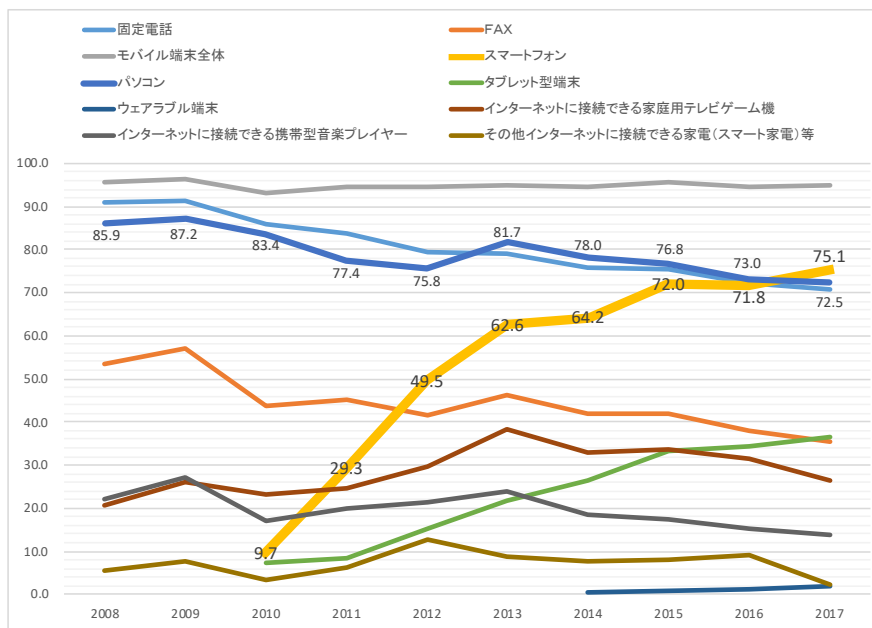
- 近現代の知を形作った近代漢語の語誌解説を拡充
- 近現代の日本語を形作った、近代作家の語彙・用例採録を拡充
- 平成 26 年度文化審議会「異字同訓の漢字の使い分け例(報告)」を参考に同訓の漢字の使い分け例をさらに増補
- ビジューナな日本語解説「特別ページ」に新たに「日本の辞書」と「国語施策」を追加

詳しくは、[大辞林 第四版 特設ウェブサイト] <https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/topic/djr4/>

## 『大辞林 第四版』刊行の背景

2006年10月に発売した『大辞林 第三版』では、書籍購入者が専用ウェブサイト上でウェブ版『大辞林』を利用できるサービス「デュアル大辞林」を開始しました。パソコンとインターネットの広範な普及に対応して、書籍版と電子版を同時出版した日本初の試みは、「新しい辞典の形態」として多くのメディアで取り上げられました。

2007年にはiPhoneが米国で発売され、この10年以上の期間でスマートフォンは急速に普及してきています。2017年にはスマートフォンの世帯保有率は75.1%となり、パソコンの世帯保有率72.5%を上回っています(総務省「平成30年版 情報通信白書」より)。また、スマートフォンの特徴として、1人が1台持つ情報端末であることが挙げられます。個人のスマートフォンの保有率の推移をみると、2011年に14.6%であったものが、2016年には56.8%と5年間で4倍に上昇しています(総務省「平成29年版 情報通信白書」より)。



総務省「通信利用動向調査」(<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05.html>)をもとに作成

このように情報通信環境が急激に変化し、スマートフォンが生活の中心になりつつある中で、紙・デジタルを同時提供するという13年前のコンセプトは、今の時代にこそ求められる辞書の姿であると考えています。第四版を刊行するにあたっては、「デュアル大辞林」のコンセプトを発展させて、書籍購入者がスマートフォンアプリで『大辞林』が使える仕組みを開発しました。これにより、紙かデジタルかという媒体の限定にとらわれず、それぞれの利点を読者が自由に使い分けることを可能にしたのです。

他方で、2018年の紙の出版物の推定販売金額はピークだった1996年の半分を切り、紙の出版物の販売低迷に歯止めがかからない状況が続いています(出版科学研究所「2019年版 出版指標 年報」より)。このように市況が厳しい中でも、三省堂は紙の辞書のニーズを創出する多種多様な取り組みを行なっています。たとえば、2019年3月に発売した『三省堂国語辞典 第七版 広島東洋カープ仕様』は、カープファンという新たな顧客層を掘り起こし、紙媒体の辞書が持つ利点を再認識してもらうことに成功しています。文字・活字文化の担い手として、紙媒体の辞書を求めるお客様に対し、最新の内容を書籍という形に仕上げて届けることは、辞書出版社の社会的責務であると考えているところです。

日々新たな事象が出来し、瞬時に情報として拡散する現代ですが、それらの事象の考察や検討の根底には常にことばがあります。課題解決のためには、いにしえより現代までつなぐことばを再確認すること、そして同時に、現代の最新の情報を確かめることが不可欠ではないでしょうか。知恵と知識としてのことばを確かに伝えることが三省堂の出版事業の中核にあると考えています。三省堂の旗艦商品である『大辞林 第四版』がその基盤となることを心より願っています。

## 『大辞林』のこれまで

1988年(昭和63年)11月 **大辞林初版刊行** 22万項目収録

企画立案から刊行に至るまで28年の月日を費やしました。好評をもって迎えられ、ミリオンセラーに。パソコンもまだ普及していない時代、苦難の歴史を乗り越え、大辞林ひと筋に刊行を実現させた当時の編集長は、週刊誌誌上で「サラリーマンの本懐」などと紹介され、話題になりました。

1995年(平成7年)11月 **第二版刊行** 23万3,000項目収録

翌1996年は出版業界において売上のピークとされる年です。同じ年に各社から一冊もの大型辞典が相次いで刊行されました(小学館『大辞泉』、講談社『日本語大辞典 第二版』)。業界では「辞典戦争」と呼ばれ注目を集めました。

2006年(平成18年)10月 **第三版刊行** 23万8,000項目収録

一冊ものの大型国語辞典としては21世紀初の刊行となりました。書籍購入者が専用ウェブサイトでウェブ版『大辞林』を利用できるサービス「デュアル大辞林」を開始。紙とデジタル、一つの辞書で二つの引き方を可能にしたこの試みは、ネット連動の「新しい辞典の形態」として、多くのメディアで取り上げられました。

## 『大辞林 第四版』書誌情報

書名: 大辞林 第四版

編者: 松村明・三省堂編修所

定価: 本体9,000円+税

体裁: B5変型判/本製/函入り/3,200ページ

ISBN: 978-4-385-13906-7

発売日: 2019年9月5日(木) ※一部地域を除きます。

## 会社概要

会社名: 株式会社三省堂

本社所在地: 〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2丁目22番14号

創業: 1881年(明治14年)4月8日

代表取締役社長: 北口克彦

資本金: 7,000万円

従業員数: 155人(2019年4月現在)

事業内容: 辞書、事典、学習図書、一般図書、電子出版物、小学校・中学校・高等学校教科書の出版・販売、情報提供サービス

## 社名の由来

社名の「三省堂」は中国の古典『論語』の「学而篇」の一節「吾日三省吾身」(われ日にわが身を三省す)という言葉から採られたもので、「不忠、不信、不習について、日に幾度となくわが身を省みる」という意味です。『論語』の「三省」は「さんせい」と読みますが社名は1889(明治22)年までは「SANSHODO」と表記していました。1890(明治23)年以降は「SANSEIDO」と表記しています。

## 本書に関するお問い合わせ

株式会社 三省堂 販売部販売宣伝課

Tel: 03-3230-9562

E-mail: [www-info@sanseido-publ.co.jp](mailto:www-info@sanseido-publ.co.jp)